

題材名「ようこそ！きすみ学級へ」

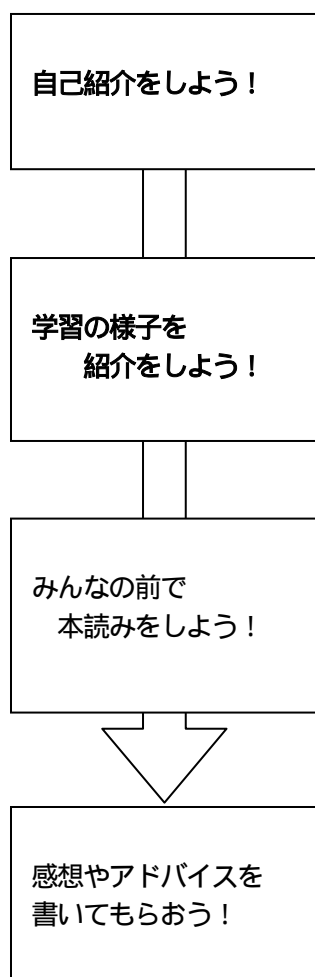
目 標

- ・きすみ学級で毎日取り組んできた発音練習、音読練習の成果を発揮する場を設定し、たくさんの人に聞いてもらう。
- ・更に素晴らしい発表とするための適切なアドバイスをもらうことによって、自分に自信を持ち、今後の活動に意欲的に取り組み、コミュニケーション能力を更に向上させる。

コンピュータを活用する利点

言葉によるコミュニケーションが苦手な児童が、人前で発表するとき、その発表内容をより理解してもらうために視聴覚機器を使用することは有効な手段である。コンピュータは、画像の編集・サイズ調整などが簡単にでき、発表時もマウス操作だけで簡単にできる。また、音楽やコメントを付け加えることも簡単にできるため、より効果的なプレゼンテーションが可能であるため、有効な学習補助機器である。

授業の流れ



ICT 活用場面

本学級児童2名に共通している課題は、「言葉によるコミュニケーションが、うまくとれない。」ことである。自分の意思を相手に正しく伝えることができないため、予期せぬトラブルをまねいたりする。また、人前で発表や話をする場合、みんなにちゃんと伝わるのか不安で、緊張のため声も小さくなってしまい「聞こえません。もう一度言って下さい。」と言われ、よけいに萎縮してしまうという悪循環に陥ってしまう。

彼らは、コンピュータでの学習が大好きで、他校の児童とのメール交換も経験がある。コンピュータを使っているときは、いつも笑顔で、楽しそうに操作している。

そこで、彼らが大好きなコンピュータとプレゼンテーションソフトを補助機器として活用ことにした。自己紹介の場面では、保護者に、生まれた時から現在までの写真をたくさん用意してもらい、参観者にその写真を見せながら自己紹介をした。参観者の反応は上々で、彼らも満足そうだった。学習の様子を紹介しようの場面でも、普段の学習の様子を写真をたくさん撮影し、それを参観者に見せながら、また必要に応じてその場で実演も行うことで、より理解してもらえたと思う。

成果と課題

学習後、参観者より以下のコメントを頂いた。

- ・めあてがはっきりしていたので、子供が取り組みやすかった。
- ・さりげなく2人が助け合っていた姿が微笑ましかった。
- ・子供も指導者も表情が明るくて、よりよい人間関係ができていると感じた。
- ・支援を必要とする児童への効果的なコンピュータの活用方法を見せてもらった。今後の指導の参考にしたい。

子供たちも満足そうに、「今日の発表はどうでしたか？」と参観者に聞いていた。ある参観者から、「ぜひ、全校生の前でやってほしい。」という要望がでた。「これは、断るか黙ったままだろうな。」と思っていたが、二つ返事で「はい、がんばります。」と言ったのには正直驚き、彼らの成長を目の前で見ることができ本当にうれしかった。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	デスクトップパソコン1台 プロジェクタ
使用ソフト名	Microsoft Power point
使用教室	知的障害児学級